

# ブレインアトラスハッカソン 2015 アンケート結果

開催日時・場所：2015年9月5日9:45～7日17:00

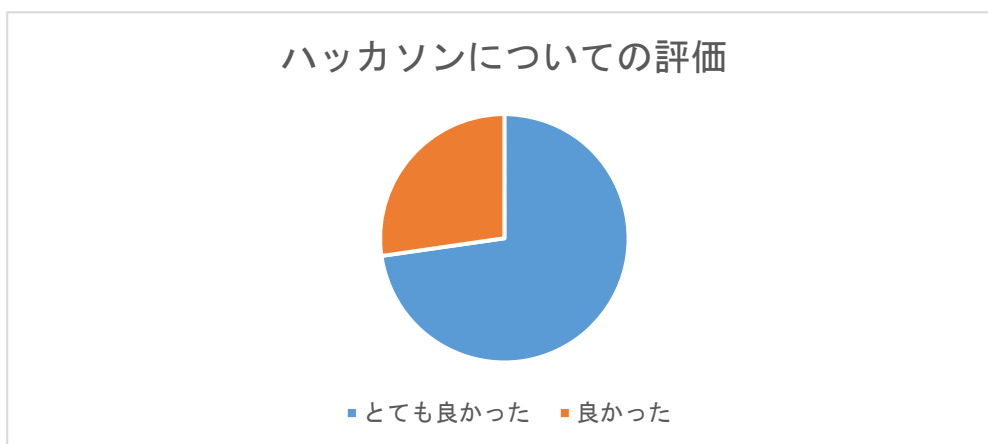
理化学研究所脳科学総合研究センター東棟1Fセミナー室ほか

参加者：19名（一部欠席を含む）

回答者：11名

## 【1】 このイベントについての評価

5（とても良かった） 8 / 4（良かった） 3 / 3（普通） 0 /  
2（あまり良くなかった） 0 / 1（良くなかった） 0



## 【2】 開催場所についていかがでしたか？（自由記述）

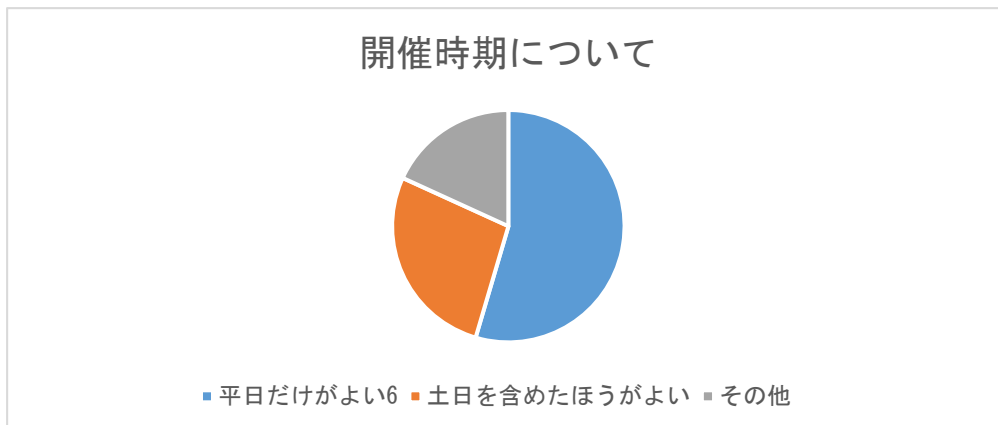
- ・窓があって快適だった。ディスプレイの大きいものが使えてよかった。
- ・ホテルからも近く、設備も整っていて素晴らしかった。
- ・第一回として、参加費用や移動時間、設備等の準備が低コストの点で良い場所だったと思います。これらの開催コストが許せば、次は違う環境で開発できるとよりハッカソンらしくなると思います。
- ・普段と同じ様な環境だったので、力が抜けた状態でプログラムを書くことができた。
- ・もっと仕事から離れた場所でもよかったかと思います。モニター他、色々な道具も使い便利は良いのでそれはそれでよかったです。
- ・開発設備が整っていたのが良かった。
- ・温泉宿などゆっくり休みながら作業もできる方がいいと思います。
- ・私個人的にはOKです。
- ・人が集まりやすい東京近郊で非常に良い場所でした。
- ・職場なので参加しやすかった。
- ・自分は理研所員なので所内はやりやすかった。

【3】 開催時期（曜日）はいかがでしたか？（いずれかに○）

平日だけがよい 6 / 土日を含めた方がよい 3 / その他 2

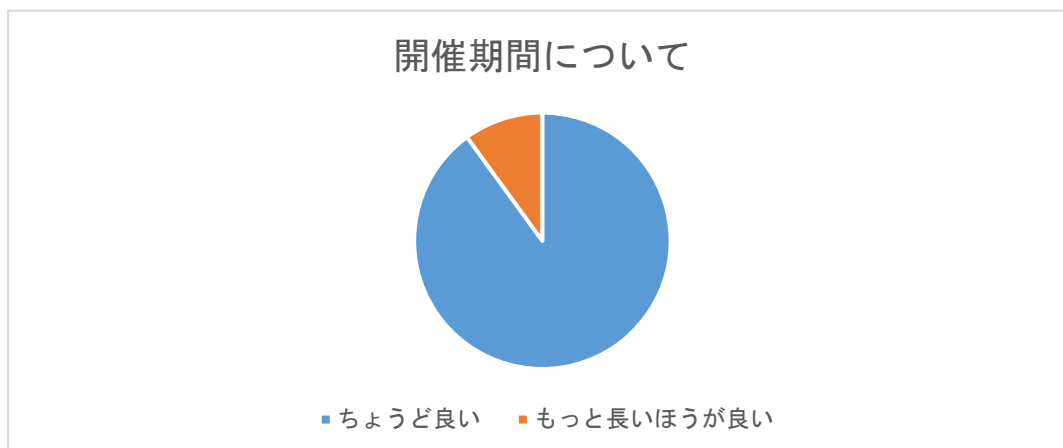
その他コメント

- ・授業がない時期でしたらいつでも良いです。
- ・参加人数が増えるならばいつでもよい。



【4】 開催期間はいかがでしたか？（いずれかに○）

ちょうどよい 9 / もっと長い方がよい 2 / もっと短い方がよい 0



【5】 費用について、今回神経情報基盤センターよりサポートをしましたが、

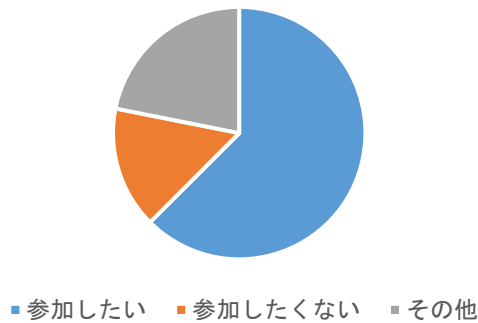
次回より自費でも参加したいかどうかのご希望をお聞かせ下さい（いずれかに○）

参加したい 4 / 参加したくない 1 / その他 6

その他コメント

- ・東京近郊なら自費でも参加したい。
- ・費用や開催日程、内容次第で自費参加希望。
- ・参加出来ない（就職のため）
- ・自分はプログラマーというわけではないので、参加について、迷うところはある。
- ・場所と内容により自費でも参加したい。

## 自費でも参加したいか



### 【6】 次回のテーマについてご希望をお聞かせ下さい（自由記述）

- ・ データベース間の連携を進めるプログラム開発、オントロジー共有など。
- ・ 実験研究者が必要としているソフト、機能の実現を目指して、連携する方向が良い。
- ・ IPython Notebook を中心としたシステムの開発が担当プロジェクト内で動き出し、また、似た話をアイデアソンで話したこともあり、関連する開発が行えればと思います。
- ・ 自分としては今回の延長線上で機能拡張をめざしたいです。
- ・ 仕事とも関連しますが、3 DViewer 開発に興味があります。
- ・ ハッカソンでやるかどうかは別にして、WYSIWYG 形式のオントロジーツリー作成ソフトや、あるいは、XML、RDF、OWL、OBO 形式等のファイルを、ダブルクリックか、またはフォルダあるいはディレクトリー等に入れるだけで、その実際の最終的なコンピューター上の画面と同じ内容のものが見れるビューアソフトが欲しいなあとは思っています。
- ・ データベースアクセスからデータ解析までの自動化処理
- ・ 次回は VCAT の話をできればと思う。

### 【7】 次回以降の開発成果物の公開についてお考えをお聞かせ下さい（いずれかにチェック）

（公開できる部分だけでも）積極的に公開すべき 8

原則的に全て公開すべき 2

開示する利用者を限定したい 0

公開する必要はない 0

その他 1

- ・ 開発物の内容や目的にもよると思いますが、例えば、自分達向けのみで作成したとか、または、自分達も含め、一般にも利用できるように作成したとか、で、例えば後者の場合、市販レベルで売っているようなレベルぐらいの立派な開発物が作成された場合、それを外部者に対して無料で配布できるようにするのか、それとも有料にした方がいいのかは、一度話し合ってもいいのかもしれない。

### 【8】 イベント全体に関してのご感想、ご意見をお聞かせください（自由記述）

- ・ 成果物を公開するためには、1 回のハカソンだけでは時間が足りないように思える。その後も研究時間を割くことになると、なんらかのインセンティブが必要と思う。成果の論文化や公開につなげる活動を NIJC が少し長い目でサポートできれば（例えば良い成果・結果について、INCF の Neuroinformatics congress で発表できるようにして、その参加費用をサポートする

とか)、学生さんや若手研究者が参加しやすくなるのではないか。

- ・ 理研の方々のサポートに感謝いたします。
- ・ 開発や情報交換など様々な交流が出来ました。素晴らしいイベントでした。
- ・ ハッカソンに参加するのは初めてでしたが、大変に有意義でした。
- ・ チーム内では全員参加で進めましたが、余裕があった人もあるので、もっといろいろなことを試してもらえばよかったかなと思います。個人的には、python 得意な人が参加してくれたことで、プログラムの勉強になり、iPython notebook の利便性を再認識しました。成果はこれから NIJC ソフトウェアセンターにアップロード予定です。
- ・ プロの作業現場と一緒にいて、作業することが出来たのが貴重な体験だったと思います。
- ・ 開発者側がただ満足するだけでなく、利用者も満足するようなものができれば、一定の成果はあると思います。
- ・ グループ毎に集まる場所も豊富にあり、外付けディスプレイも借りることができて開発環境は非常に良かったです。また、それぞれの得意なスキルを共有しながらチームで一つの開発を行うことで、様々な障害を乗り越えることができましたし、個人的には非常に勉強になりました。
- ・ 非日常で他の開発者の方と交流が出来て刺激になりました。
- ・ 普段利用しないプログラミング言語やライブラリでの開発はよい刺激になった。無線 LAN が遅く感じるがあったので高速なネットワークあるいは有線が使えると有りがたかったと思う。

以上